

9月輸出は増勢維持も懸念材料が山積

9月の輸出は増勢を維持し、純輸出は7~9月期に成長率を大きく押し上げる見込み。しかし、世界経済減速、円高、タイ大洪水など、輸出の先行きについては懸念材料が山積している。

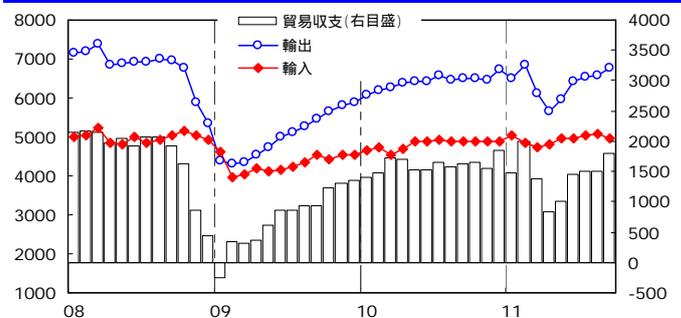
財務省が公表した9月の貿易統計によると、輸出は前年比2.4%(8月2.8%)と2ヶ月連続で前年水準を上回った。旬別データで見ると、8月下旬に前年比▲6.2%と大幅なマイナスに転じていたため、世界経済減速を受けて輸出失速かとも見られたが、9月は上旬1.2%、中旬0.8%、下旬4.8%といずれもプラス圏を維持し、底堅く推移している。季節調整値で見ても、財務省試算値が前月比2.0%(8月0.3%)、当社試算の実質ベース季節調整値でも2.9%(8月0.4%)といずれも明確なプラスを確保しており、9月までのところ輸出は増勢を維持し、失速には至っていないと判断される。

一方、9月の輸入は前年比12.1%(8月19.2%)と2ヶ月連続の二桁増加を記録したものの、伸びは鈍化した。季節調整値をみると、財務省試算の名目ベースが前月比▲2.2%(8月2.6%)、当社試算の実質ベースも▲2.1%(8月0.6%)と明確に減少している。8月に急増した鉱物性燃料の輸入が鈍化したことから、9月の輸入は増勢が一服した模様である。なお、9月の貿易収支は原系列が3,004億円と2ヶ月連続の黒字、季節調整値では▲218億円と僅かながら6ヶ月連続の赤字を余儀なくされた。

サプライチェーン復旧に伴う自動車輸出の回復が寄与し、7~9月期の実質財輸出(当社試算値)は前期比10.2%(4~6月期7.4%)と大幅な増加に転じる。一方、実質財輸入も、原発停止に伴う発電向けの鉱物性燃料の増加などが寄与し、前期比2.4%(4~6月期0.8%)と増加したものの、輸出の伸びは大きく下回っている。そのため、4~6月期に成長率を前期比寄与度0.8%Ptと大きく押し下げた純輸出(輸出-輸入)は、7~9月期には一転して、成長率を0.8%Pt程度押し上げる見込みである(現時点での概算予想であり、今後変更する可能性がある)。

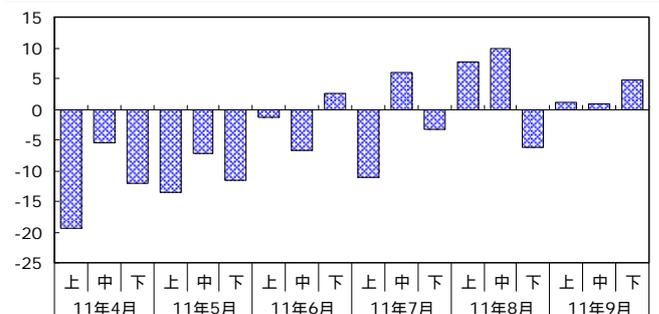
7~9月期の輸出は大幅に増加し、月次ベースでも9月は増勢を保った。しかし、輸出の先行きについては、懸念材料が山積している。第一に、世界経済減速の影響が挙げられる。当社では、先進国経済の低迷を主因

実質輸出入の推移(10億円、季調値、2005年基準)



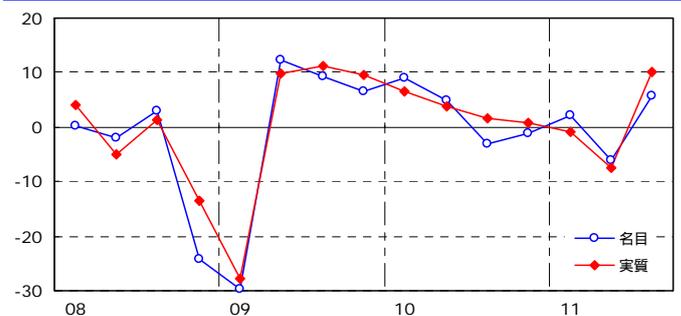
(出所)財務省、日本銀行

輸出の旬別前年比推移



(出所)財務省

名目輸出と実質輸出の比較(前期比、%)



(出所)財務省、日本銀行

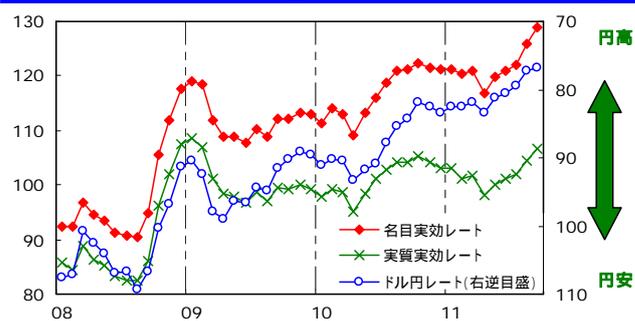
に、世界経済が 2010 年の 5.1%成長から 2011 年と 2012 年は共に 3.8%成長へ減速すると予想しており、日本からの輸出も悪影響を被る。

第二に、金融危機以降続いている円高基調による悪影響が挙げられる。加えて、今夏の更なる円高進行は、ラグをもって今年末から来年前半の輸出を更に抑制する方向に寄与する。円高進行については、輸出に及ぼす長期的な影響にも留意する必要がある。現在の円高は電力供給に関する不透明感と相俟って、製造業の海外移転を促進する方向に寄与しており、これは長い目で見て輸出の伸び代を削ることになる。

第三にタイの大洪水の影響が懸念される。タイ向け貿易は日本の輸出の 4.7% (2011 年 1~9 月実績)、輸入の 3.0%を占め、かつシェアが上昇傾向にあり¹、同国向け貿易の低迷による悪影響は無視できない。加えて、タイは、自動車や電気機械などを中心に日本企業のサプライチェーンにおいて重要な役割を果たしている。同地域での生産が長期休止を余儀なくされ、同地域からの日本や世界各地への供給が途絶えることの悪影響は甚大なものとなる可能性が否定できないだろう。第三に上げたタイの大洪水は被害が拡大を続けており、現時点で影響を把握し難いが²、第一と第二の要因だけでも 10~12 月期に日本の輸出が大きく鈍化することは不可避である。タイ要因に伴う輸出の動向次第では、日本の貿易赤字が長期化する可能性もある。

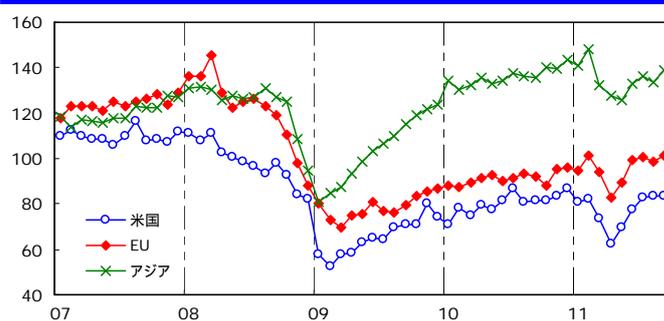
当社試算の実質ベース季節調整値で 9 月輸出の仕向地別動向を見ると、アジア向けが前月比 3.9% (8 月 1.7%) と大幅に増加し、全体を押し上げた。アジア向けでは、中国向け (8 月 6.2%、9 月 4.2%) が自動車などを中心に、ASEAN 向け (2.5%、7.3%) も電気機器を中心に好調である。一方、NIEs 向けは 0.7% (2.5%) と 3 ヶ月連続で減少した。世界的な IT・デジタル分野での生産調整が日本から NIEs 向けの半導体など電気機器輸出を抑制しているのみならず、域内での半導体や液晶関連の設備投資抑制により、資本財が主体の一般機械も大きく落ち込んでいる。米国向けは前月比 0.1% (8 月 0.8%) とほぼ横ばいだった。サプライチェーン復旧に伴い 8 月まで急回復してきた自動車を主体とする輸送用機器輸出が 9 月に▲1.3% (8 月 4.6%) と 5 ヶ月ぶりに減少した影響が大きい。輸送用機器輸出は、既に大震災前の輸出水準を回復したため、更なる伸び代には乏しい。しかし、米国の自動車調査会社によれば 9 月に続き 10 月も米自動車販売は好調であるため、失速に至るとも考えにくい。欧州向けは前月比 2.7% (8 月 2.4%) と持ち直した。米国とは逆に、輸送用機器輸出が 19.8% (8 月 14.0%) と好調だった。

為替レートの推移 (円 / ドル, 2005年=100)



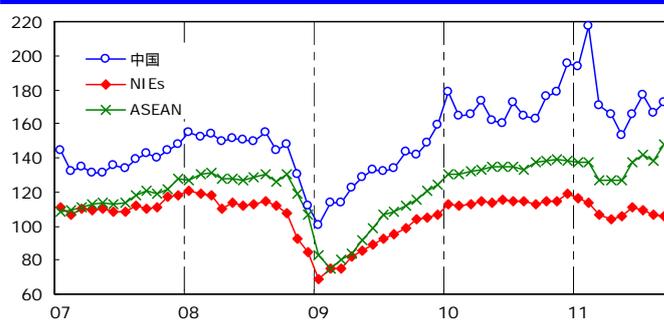
(出所) 日本銀行

地域別実質輸出の推移 (2005年=100)



(出所) 財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移 (2005年=100)



(出所) 財務省、日本銀行

¹ シェアは輸出が 2009 年 3.8%→2010 年 4.4%→2011 年 1~9 月期 4.7%、輸入は 2.9%→3.0%→3.0%。